

浅草岳スキー合宿

窪田 道男

■山行年月日:2021年3月20~21日
■メンバー:Ap 小沼充範、佐藤利伊、
榮利文、増田寿代、Bp 齋藤宇、大竹幹
衛、齋藤憲一、大竹尚子、Cp 石川貴
大、窪田道男、杉崎圭洋、齋藤美和子

小沼チーフの人望と場所の設定が良かったのか？今回は山岳会として久々の大人数の楽しい会山行となった。ヤキモキする天気予報であったが、初日の朝から快晴無風のなか、集合場所の只見、入叶津のどん詰まりにある一軒家の前に集合した。ここまで道路が除雪してあるけれども、高齢化のせいかもしれない人は住んでいなさそうである。それぞれの場所から続々と集まってくるが、我々山岳会だけが浅草岳に入山の模様である。今回、大人数なので食料、テントは、3パーティーに分かれての計画であるが、ほぼ全員一緒に行動した。

本年の只見は豪雪であったが、このところの暖かさや雨のせいかなり雪解けしている。しかし、道路わきの積雪は

2m以上ある。全員集合したところでミーティング、スキーを装着し出発。

まずは入叶津ルート of 尾根へ取り付く地点にあるスノーシェッドまで、デブリの出ている叶津川沿いを1ピッチ。スノーシェッドにテント、宿泊用具をデポする。天気の良い中、快調に山神杉目指して登高。私は、1月末に極寒の裏磐梯スキー場で、山行準備中に調子を悪くして以来山へ行っていなかったもので、今シーズン最初の山スキーになった。やはり60歳後半になると色々と身体的な不調が起きやすそうであるが、何とか調子よく登っていける。ただしスピードはゆっくりでしんがりグループ。若者グループはどんどん登っていきあつという間に遙かかなたである。山神杉は地面も出ていてゆっくり休憩。そこから小三本沢、沼の平へ向け雪でまばらな樹林帯をトラバース気味に斜滑降で下り、安沢分岐まで沢沿いにどんどん登っていく。春らしいしまった雪の中、沢もそれ程狭くな



入叶津の除雪終点に集合



春の日差しの上杉



明るく開けた小三本沢

く適度な傾斜なので登高が楽である。広い安沢出合で本流から離れて、安沢を詰めていく。天気が良いので汗をかくが気持ちいい。安沢を詰め稜線に出る頃には、かなり雲が出てきた。しかし、遠くの山々が、ぐるっと見渡せる展望良好な稜線である。意外と遠くに真っ白な浅草岳頂上が見える。今回は全員ここまでということで、今夜の泊りのスノーシェッドへ帰ることにする。

下りの滑降は、稜線から同じルート班と隣の沢すじ班に分かれて一気に滑り降りる。私はもちろん沢すじ班で、一気の滑降が楽しい。すぐに合流し、後はそれぞれ自由に滑り降りる。ややザラメ状の雪質であるが、滑降には問題なし。山神杉への登り返しも、トラバース気味に下っていき、僅かな登りで到着。

山神杉では、気付けのウイスキーで元気をつけて、最後の尾根上の快適な斜面をそれぞれ楽しく下っていく。あっという間にスノーシェッドに到着した。スノーシェッドは雨も当たらず快適なテント泊となる。そ



安沢出合から安沢を見る

れぞれのパーティーの食事は、それぞれ同じような美味しい韓国料理で、大量のアルコールとともに大いに楽しい時を過ごす。

翌日の朝は、天気予報の割にはまだ小ぶりの雨で、スキーも良く走る。車までわずかな時間で帰着。久々の大人数であったが、スキーの技術がそろっていると、大きな渋滞もなく快適な登高、滑降が出来た。私にとっても久しぶりのスキー山行が無事楽しく出来たのが何よりであった。帰りの温泉入った頃には、晴れ間も少し出て、もうすぐ春の予感されるような暖かさで満足感いっぱい。



安沢上部の1220m地点で